九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

昭和62年度演習林年報

https://doi.org/10.15017/18578

出版情報：年報（九州大学農学部演習林年報）. 1987, 1988-12-12. 九州大学農学部附属演習林
バージョン：
権利関係：

演習林研究部の改組について

最近，大学院における教育・研究の一層の高度化・活性化が各方面から要望されています。そのなかで森林科学系の大学院の教育・研究の充実を図るためには，大学自身が所有している森林すなわち演習林が活用されることが不可欠と考えられます。しかしながら，これまでの九州大学演習林を振返ってみますと，かならずしも大学院の教育・研究に十分に機能してきたとはいえないようです。その主な理由としては次の3点をあげることができます。

(1) 演習林研究部に於ける研究・教育組織体制の不備

(2) 地方演習林の遠隔地所在と教官の分散配置

(3) 共通的，汎用的データの収集，保存，利用，提供に関する体制の不備

とくに，演習林教官が北海道，宮崎，粕屋，本部と分散して配置され，現実的に大学院生の教育・研究に対応不可能な状態にあり，森林，林業，林産の3研究部門も教育組織としてはほとんど機能していませんでした。

そこで，昨年から研究部門の改組が検討されてきました。その際，演習林とその研究組織の在り方はつぎのように確認されました。

1. 大学演習林はいわゆる「大型野外実験施設」としての森林をもつ研究・教育施設である。
2. 演習林研究組織には研究・教育活動とともに，この実験施設を整備・管理し，そこで得られるデータの系統的蓄積と分析を行なう固有の任務がある。
3. 研究部門は研究・教育活動の単位組織であるとともに，地方演習林管理のための単位組織となるべきである。
4. 新しい研究組織は社会的要請にも応えうる体制であることが望ましい。

このような基本的な考え方に立って，研究部門は

環境系　森林生物部門（森林の内部関係に関わる部門）
　　森林環境部門（森林と外部環境との関係に関わる部門）

資源系　森林生産部門（資源としての森林の生産管理に関わる部門）
　　森林利用部門（資源としての森林の利用に関わる部門）

の環境系2，資源系2の4部門に再編されました。

この新たに発足した研究部門が研究・教育活動にその機能を十分に発揮するためには，早急に取組まねばならないいくつかの課題が残されております。今後とも関係各位の一層の厳しいご批判とご指導とをお願いいたします。

1988年10月

研究部長　汰　木　達　郎